



CONTENTS

- * ランチタイム カモミール・カフェ
- * タメになるジェンダーのお話
- * ロールモデル講演会
- * 共同研究採択者説明会
- * ソロプチミスト
- * カモミール月曆
- * 男女共同参画週間
- * 保育園たより

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



ロールモデル講演会

5月27日（金）に、柳戸会館集會ホールにて、文化人類学者で東京大学名誉教授・岡崎女子大学教授の白石さや氏によるロールモデル講演会を開催しました。白石氏は、ナショナリズム研究のバイブル的な書物として今も読み継がれるベネディクト・アンダーソンの『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』の日本語訳で有名ですが、本講演会は「私の生活を学問する—子育てを研究に活かしながら」と題され、氏のこれまでの人生の中で、家族や身近な人々との交流が研究の中でどう活かされてきたかということに焦点を絞っておこなわれました。



留学中に出産を経験し、産後の体調不良で外に出かける仕事は困難になった時期、当時の日本では所属の無い研究者には大学の図書館も開かれておらず、助手や助教授として就職の話があっても保育園がないなどいわゆる「専業主婦」という生活を余儀なくされたという体験が語られました。ただし、氏はこれをただの苦労話で終わらせず、その期間を専門領域を広げる機会とされたそうです。子育てがキャリア形成の邪魔になるなどと考えるのはつまらないことだという考え方のもと、『想像の共同体』の翻訳をし、新たに、子どもの文化人類学や、教育人類学、子どもの成長にあわせてポピュラーカルチャーの人類学という新ジャンルを生み出して、この分野の数少ない先駆的研究者になったことから、後に東京大学教育学研究科で教えることになる道筋ができたのだそうです。研究者は研究機関に属しているから研究者ではなく、当人の意欲と能力さえあれば研究者であり続けることができることを実証してみせてくださいました。



講演の締めくくりに、ご子息の言葉が紹介されました。「もし、女性たちが社会に出る権利を求めて女権運動を始める前に、男性たちが居心地のいい自宅で、週の半分は子どもの世話や料理をして過ごす権利を主張して男権運動を始めていたら、今の社会はだれにとっても遥かに住みやすい社会になっていたかもしれない」。聴講者一同この言葉に感銘を受け、講演終了後も白石氏と意見交換が弾みました。

カモミール月曆 (室長からのメッセージ)

副学長(多様性人材活力推進担当) 林 正子

岐阜大学地域交流協力会フォーラムでの取り組み紹介

岐阜県を中心とする東海地方の企業が加盟する「**岐阜大学地域交流協力会**」(会長:岡本知彦(株)ナベヤ代表取締役社長)は、産官学連携による地域社会への貢献を目的としており、現在、173正会員(148企業会員、11団体会員、14個人会員)と38賛助会員で構成されています。5月31日(火)、グランヴェール岐山で開催された「**岐阜大学地域交流協力会フォーラム**」にて、地元企業の方々に、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「**ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)**」の概要を紹介し、「**清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト**」への連携・協働を呼び掛ける機会をいただきました。

3枚のパネルを展示し、「**地域循環型女性研究者育成・支援プログラム**」の目標と取り組み内容、事業の要となる連携型共同研究12件の研究課題(一覧)を紹介。共同研究のうち、「**ローヤルゼリーの抗うつ様作用のメカニズムに関する研究**」と「**ローヤルゼリータンパク質のアレルゲン性に関する基礎的研究**」については、連携機関であるアピ株式会社の荒木陽子 キャリアアップ推進室長よりご説明いただき、民間企業が大学と協働する意義について語っていただきました。

本連携事業は、岐阜県を中心とする地域内での女性研究者・女性技術者の流動性を高めつつ、安定した活躍の場を確保することによって、岐阜創生に繋げることを趣旨としています。「**女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)**」が制定された現今、企業・団体と連携しての勉強会・セミナー・シンポジウム・ワークショップ等の開催、女性研究者のインターンシップ派遣による交流等々、大学と企業のさまざまな協働のかたちを模索しているところです。多くの地元企業の方々と、「**女性も男性も共に働き共に育む社会**」の実現に向けて、堅実で実効性のある取り組みを展開してゆけますよう、願ってやみません。

全学共通教育科目「岐阜大学の教育研究と運営」開講

サテライトキャンパスの早朝授業(8:00~9:30)として、全学共通教育科目「**岐阜大学の教育研究と運営**」(コーディネーター:江馬 諭 教学・附属学校担当理事・副学長)が開講されています。第9週の授業として、6月6日(月)、「**男女共同参画推進の取り組み**」を担当しました。最初に、「**男女共同参画社会基本法**」(1996年6月)による「**男女共同参画社会**」の定義を確認し、女性の年齢階級別労働力率(M字カーブ)、研究者に占める女性割合の国際比較、専攻分野別の研究者割合等のデータによって、女性の能力発揮が期待されている背景を説明しました。第4次**男女共同参画基本計画**(2015年12月)など、国の施策の基本的方向や具体的な取り組みと併せて、意識改革・女性研究者育成・女性研究者支援・人的資源循環支援の各課題に対応する岐阜大学の男女共同参画推進の取り組み、学生参加の活動についても紹介しました。

今年度の本授業は、受講生26名の小クラスでしたが、今後の自分自身の人生設計と「男女共同参画」がどのように関連する(可能性がある)かについて、「結婚・出産・育児など、自分自身のライフデザインをしっかりと描きたい」、「卒業後にはワーク・ライフ・バランスに配慮する会社に就職したい」、「パートナーとともに職業と家庭生活を両立させたい」「このようなテーマの授業は、初年次セミナーなどで学生全員が受講すべきだ」等々の小レポートが寄せられ、受講生ひとりひとりが、当事者意識をもって「男女共同参画」のあり方を考えてくれたことが伺え、担当者としてうれしい授業となりました。

引き続き、学生の皆さんへの啓発活動も、男女共同参画推進室を挙げて、精力的に進めてゆきたいと願っています。



ランチタイム カモミール・カフェ

サイエンス夢追い人育成プロジェクト (女子大学院生による出前講義) 説明会

5月19日(木)、カモミール・カフェにて、「女子大学院生による出前講義」の講師に登録した院生の皆さんを対象に、ランチタイム カモミール・カフェを開催しました。教職大学院の後藤信義特任教授を講師に迎え、



長年の教師経験を基に、中学生や高校生にわかりやすく講義をおこなうコツについてレクチャーしていただきました。講義方法や講義スタンス、驚きのある講義についてもお話ししていただき、今年度から出前講義をおこなう学生にとっては、大いに自身の講義の進め方の参考になったようです。

活動実績集ご希望の方は、男女共同参画推進室までお知らせください。➡

活動実績集には、昨年度の出前講義を掲載しています。



男女共同参画週間

6月23日(木)～29日(水)は、
男女共同参画週間です。

私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか？

平成28年度 6/23(木) - 29(水)
男女共同参画週間

男女共同参画推進本部
内閣府男女共同参画推進ホームページ
<http://www.gender.go.jp/>

男女共同参画推進Facebook
<http://www.facebook.com/teigijyodan>

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」



共同研究採択者説明会

5月16日(月)に、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(連携型)のメインプロジェクトの一つである「平成28年度連携型共同研究」支援に採択された共同研究代表者と部局経理担当者を対象として、経費の使い方の説明会を実施しました。

本プロジェクトは、女性研究者がPI経験を積むことによって上位職登用へとつながることを趣旨としています。経費の使い道には文部科学省からの様々な制約がありますが、研究力向上に向けて大いなる成果が期待されています。



タメになるジェンダーのお話

平成27年度ジェンダー関連授業「労働とジェンダー」から、不定期でお届けしています「タメになるジェンダーのお話」。今回は最終回です。

男女共同参画推進室特任助教 相原征代

前回まで、少子化についてのデータを紹介してきましたが、今回は男女の意識差についてご紹介したいと思います。内閣府の『平成26年度版 少子化社会対策白書』によると、「未婚者に対する結婚支援」として有効なのは、

- ①「給料を上げて、安定した家計を営めるよう支援する（47.3%）」
- ②「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実（45.8%）」
- ③「雇用対策をして、安定した雇用機会を提供する（45.7%）」

が上位三つの回答でした（対象は20歳から59歳の男女1万人）。この結果を39歳以下の未婚男女別に見てみると、②を選ぶ割合は女性のほうが高いのです（男性33.8%に対して女性50.6%）。つまり男性のほうが「夫婦共働き」に関心が低いと言えるのではないのでしょうか。特に学生は、男性35.5%に対して女性62.6%となり、さらに「男女の意識の差」は広がります。しかも、ほかの項目に関してはそれほど男女の格差はないのですが（例えば①は5%、③は約7%）、②に関してはどのカテゴリーでも10%以上の男女差があるのです。このような男性の「夫婦共働き」への意識の低さが、女性に「家事・育児との仕事の両立は無理」と感じさせ、第二子をあきらめることになるのではないのでしょうか。統計を見る限り、特に大学では、「男女共同参画への意識変革」はまだまだ必要だと言えそうです。

（おわり）

保育園たより

4月27日（水）「ほほえみ」「すこやか」合同でホスピタルパークへ遊びに行きました。



進級・入園して初めての合同行事♪みんなで外で食べるお弁当はおいしい！



異年齢で楽しく遊び、広い芝生でたくさん走ることができました。



ソロプチミスト受賞

この度、本学大学院連合獣医学研究科博士課程1年 佐野有希さんが、国際ソロプチミストから女子大学院生奨学金を授与されました。

将来、社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする女子大学院生奨学金は、学業・人材ともに優秀で修士、博士学位取得を目指している全国の学生から選考がおこなわれ、佐野さんは応募者多数の中から高い評価を受けて選考されたとのことでした。

佐野さんの研究課題等

冬眠動物のもつ低温耐性メカニズムについて明らかにすること。最終的には、移植臓器の低温保存や脳梗塞等の虚血性の障害に対する低体温療法への応用を目指しています。



連合獣医学研究科 佐野有希さん